

第十一部 イスラエルの贖いと回復

イザヤ 40 章～66 章

「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。——あなたがたの神は仰せられる——
エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その苦役は終わり、その咎は償わ
れている、と。そのすべての罪に代えて、二倍のものを主の手から受けている、と。」

(イザヤ 40 : 1～2)

□ 第十一部のアウトライン

- | | |
|------------------------|----------------|
| A) プロローグ | 40 章 1～11 節 |
| B) イスラエルの苦難は終わる | 40 章 12 節～48 章 |
| C) イスラエルの罪は償われている | 49 章～57 章 |
| D) イスラエルは二倍のものを受けている | 58 章～66 章 |

□ 「B) イスラエルの苦難は終わる」のアウトライン (40 章 12 節～48 章)

1. 主の偉大なること、比べ得るものなし (40 章 12 節～31 節)
2. 偶像を裁く (41 章)
3. 主のしもべ (42 章)
4. バビロンからの解放 (43 章 1 節～44 章 5 節)
5. 偶像崇拜の愚かさ (44 章 6 節～23 節)
6. バビロン捕囚からキュロス王による解放 (44 章 24 節～45 章 25 節)
7. バビロンとその偶像たちに対するさばき (46 章 1 節～47 章 15 節)
8. 預言を受けるイスラエル民族への主の要求 (48 章)

□ 「1. 主の偉大なること、比べ得るものなし」のアウトライン (40 章 12 節～31 節)

- a. 天地万物の創造者である神の偉大さ (12～17 節)
- b. 神の比類なきこと (18～24 節)
- c. 結論 (25～26 節)
- d. 適用 : c.での結論を、イスラエルにあてはめると (27～31 節)

□ 「2. 偶像を裁く」のアウトライン (41 章)

- a. 裁判の開始宣言 (1 節)
- b. 近い未来の預言 : バビロン捕囚からの解放、主が解放者を立てる (2～7 節)
- c. 遠い未来の預言 : 大患難期を経てイスラエルが最終的に解放される (8～20 節)
- d. 偶像に対する神の訴え (21～24 節)
- e. 偶像に対する判決 (25～29 節)

B) イスラエルの苦難は終わる

1. 主の偉大なること、比べ得るものなし (40 章 12～31 節)

a. 天地万物の創造者である神の偉大さ (12～17 節)

12 節 だれが手のひらで水を量り、手の幅で天を測り、地のちりを升に盛り、山々を天秤で量ったのか。もろもろの丘を秤で。 《天地の創造者は、主である》

13～14 節 だれが主の霊を推し量り、主の助言者として主に教えたのか。主はだれと相談して悟りを得られたのか。だれが公正の道筋を主に教えて、知識を授け、英知の道を知らせたのか。 《主に教えた者は、だれもない》



15～17 節 見よ。国々は手桶の一しずく、秤の上のごみのように見なされる。見よ。主は島々をちりのように取り上げる。レバノンも、薪にするには足りない。その獣も、全焼のささげ物にするには足りない。すべての国々も主の前では無いに等しく、主には、空しく何も無いものと見なされる。

b. 神の比類なきこと (18～24 節)

18 節 あなたがたは神をだれになぞらえ、神をどんな似姿に似せようとするのか。

- あなたがた・・・偶像崇拜をする異邦人諸国の人々

19～20 節 鋳物師は鋳像を鋳て造り、金細工人はそれに金をかぶせ、銀の鎖を作る。貧しい者は、奉納物として朽ちない木を選び、巧みな細工人を探して、動かない彫像を据える。 《鋳像や彫像を神とするのは、愚かしい》

21 節 あなたがたは知らないのか。聞いていないのか。初めから、告げられていなかったのか。悟っていなかったのか。地の基のことを。

- 人は、自分の足もとの地球が初めにどのように造られたのかさえ知らない。それに対して、主は、その地球だけでなく、それをもおおう大宇宙を造り、その大宇宙の上に住むお方である、と次の 22 節に続く。

22～24 節 主は、地をおおう天蓋の上に住む方。地の住民はバッタのようだ。主は、天を薄絹のように延べ広げ、これを天幕のように張って住まわれる。君主たちを無に帰し、地をさばく者たちを空しいものとされる。彼らが植えられ、蒔かれ、いよいよ根を張ろうとするとき、主はそれに風を吹きつけ、彼らは枯れる。暴風がそれを藁のように散らす。

c. 結論 (25～26 節)

25 節 「それなのに、あなたがた（偶像崇拜をする異邦人諸国の人々）は、わたしをだれになぞらえ、だれと比べようとするのか」と 聖なる方は言われる。

26 節 あなたがたは目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。
この方はその万象を数えて呼び出し、一つ一つ、その名をもって呼ばれる。
この方は精力に満ち、その力は強い。一つも漏れるものはない。

- 主を、どのようなものにもなぞらえたり、比べたりしてはならない。偶像を造ってそれを神とすることなど、決して、してはならない。
- 主こそ、力あるお方である。恐れるべきお方は主である。どんなに富と力を持つ支配者や強国といえども、主の御手のうちにある。

d. 適用 : c.での結論を、イスラエルにあてはめると (27～31 節)

【イスラエル民族が、将来、言い立てるであろう不満】

27 節 ヤコブよ、なぜ言うのか。イスラエルよ、なぜ言い張るのか。「私の道は主に隠れ、私の訴えは私の神に見過ごされている」と。

- 近い将来にバビロン捕囚、遠い将来に大患難期。そのときの不満の声。

【イスラエル民族が、c.での結論を思い起こせば、わかること】

28～29 節 あなたは知らないのか。聞いたことがないのか。 《イスラエルは、知っているし、聞いてきた》 主は永遠の神、地の果てまで創造した方。疲れることなく、弱ることなく、その英知は測り知れない。疲れた者には力を与え、精力のない者には勢いを与えられる。

【主を信頼して待ち望む、イスラエルの信仰ある者たちへの約束】

30～31 節 若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。

しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができ
る。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。

- 若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる・・・どんなに強い人でも、自分の力に頼っていると、疲れて力尽き、つまずき倒れる
- しかし、主を待ち望む者は新しく力を得・・・自分自身の力に信頼を置かず、主に希望を置き、主に頼る人は、新しく力を受ける。

2. 偶像を裁く (41 章)

a. 裁判の開始宣言 (1 節)

1 節 「島々よ、わたしの前で静まれ。諸国の民よ、新しく力を得よ。近寄れ、そして語れ。われわれは、ともに、さばきに近づこう。

- さばきに近づこう・・・諸国民に裁判の開始を告げる。主が、諸国民の偶像を裁く。

b. 近い未来の預言：バビロン捕囚からの解放、主が解放者を立てる (2～7 節)

2～4 節 だれが一人の者を東から起こし、その行く先々で勝利を収めさせるのか。だれが彼の前に国々を渡し、王たちを踏みにじらせるのか。彼はその剣で彼らをちりのようにし、その弓で藁のように追い散らす。彼は彼らを追い、難なく進んで行く。まだ自分の足で行ったことのない道を。

だれが、最初から代々の人々に呼びかけてこれらをなし、これらを行ったのか。

主であるわたしだ。わたしは初めであり、また終わりとともにある。わたしがそれだ。

- 一人の者・・・ペルシアの王キュロス (イザヤ 45 : 1、II 歴 36:22、エズラ 1:1)。バビロニア帝国を倒して、メディア・ペルシア帝国の時代をもたらす。
- わたしは初めであり、また終わりとともにある・・・主が最初に計画を立て、実際にそのとおりに成就させる。

5～7 節 島々は見て恐れる。地の果ては震えながら、近づき、やって来る。彼らは助け合い、その兄弟に「強くあれ」と言う。鋳物師は金細工人を励まし、金槌で打つ者は、^{かなど}鉄床をたたく者を励まして、はんだ付けについて『それで良い』と言い、釘で打ち付けて動かないようにする。

- 島々、地の果て・・・バビロニア帝国に支配されていた周辺諸国。支配者がバビロニアからペルシアに代わる激動の中で、恐怖にかられる。諸国民が頼りにするのは、偶像。
- はんだ付けについて『それで良い』と言い、釘で打ち付けて動かないようにする・・・偶像は、自分では歩くことも立つこともできない。倒れてしまっはみっともないので、土台にはんだ付けしたり、釘で打ち付けたりして偶像を安定させねばならない。そのような偶像に頼る愚かしさを指摘している。

c. 遠い未来の預言：大患難期を経てイスラエルが最終的に解放される（8～20 節）

8～10 節 だがイスラエルよ、あなたはわたしのしもべ。わたしが選んだヤコブよ、あなたは、わたしの友アブラハムの裔だ。わたしはあなたを地の果てから連れ出し、地の隅々から呼び出して言った。『あなたは、わたしのしもべ。わたしはあなたを選んで、退けなかった』と。

恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。

- あなたを地の果てから連れ出し、地の隅々から呼び出して・・・大患難期の後、イスラエル民族が約束の地に帰還するという預言
- あなたを守る・・・大患難期の後半では反キリストが全世界を支配し、バビロンをその首都とする。反キリストはイスラエル民族の全滅を目指して攻撃するが、主がイスラエルを守り助ける。

11～13 節 見よ。あなたに向かっていきり立つ者は みな恥を見て辱められ、あなたと争う者たちは 無いものようになって滅びる。あなたと争う者を探しても、あなたは見つけることができず、あなたと戦う者たちは、全く無いものようになってしまう。

わたしがあなたの神、主であり、あなたの右の手を固く握り、『恐れるな。わたしがあなたを助ける』と言う者だからである。

- あなたに向かっていきり立つ者・・・反キリストとそれに従う諸国民の軍勢

14～16 節 恐れるな、虫けらのヤコブ、イスラエルの人々。わたしがあなたを助ける。——主のことば—— あなたを贖う者はイスラエルの聖なる者。見よ。わたしはあなたを 鋭く新しい両刃の打穀機とする。あなたは山々を踏みつけて粉々に砕き、丘を粃殻のようにする。あなたがそれをあおぐと、風が運び去り、暴風がそれをまき散らす。あなたは主にあって喜び、イスラエルの聖なる者によって誇る。

- 虫けらのヤコブ・・・ヤコブとは、イスラエル民族の別称。虫けらとは、軽蔑した意味ではなく、弱く助けを必要としているという意味。

17～18 節 苦しむ者や貧しい者が水を求めても それはなく、その舌は渇きで干からびる。わたし、主は彼らに答え、イスラエルの神は彼らを見捨てない。わたしは裸の丘に川を開く。平地のただ中には泉を。荒野を水のある沢とし、砂漠の地を水の源とする。

- 苦しむ者や貧しい者・・・イスラエルの信仰ある残りの者たち（レムナント）を指す。レムナントが大患難期後半、荒野に避難する先（ボツラ、現

代の南ヨルダンのペトラ) には、自然の水はない。しかし、主が超自然的に水を供給し、3年半の間、彼らを養う。

- 【補足】「苦しむ者や貧しい者」という表現が信仰あるレムナントを指すのは、「苦しむ者」と「貧しい者」が同じ文脈の中で使われているときである。「苦しむ者」だけ、あるいは「貧しい者」だけが使われるときは、信仰あるレムナントを指すのではなく、そのことばのとおり、何かで苦しむ者、あるいは、生活が貧しい者である。

19 節 わたしは荒野に、杉、アカシヤ、ミルトス、オリーブの木を植え、荒れ地に、もみの木、すずかけの木、檜をともに植える。

- これは、メシアの王国になってからのこと。大患難期に破壊された地球の自然が回復される。このように荒野に木々が育つ経過をイスラエルの民に見せる目的は、次の 20 節。

20 節 それは、主の手がこれを行い、イスラエルの聖なる者がこれを創造したことを、彼らが見て知り、心に留めて、ともに悟るためである。

d. 偶像に対する神の訴え (21～24 節)

21 節 あなたがたの訴えを出せ。——主は言われる—— あなたがたの証拠を持って来い。——ヤコブの王は言われる—— 持って来て、後の起ころうとする事を告げよ。前の事は何であったのかを告げよ。そうすれば、われわれもそれを心に留め、後の事を知ることができるだろう。または、来るべき事をわれわれに聞かせよ。後に起ころうとする事を告げよ。そうすれば、われわれは、あなたがたが神々であることを知るだろう。良いことでも悪いことでもしてみよ。そうすれば、われわれはともに見て驚くだろう。見よ、あなたがたは無に等しい。あなたがたの行いは空しい。あなたがたを選ぶ者は忌まわしい。

- あなたがた・・・異邦人諸国の人々が崇拝する、いろいろな偶像

e. 偶像に対する判決 (25～29 節)

25 節 わたしが北から人を起こすと、彼は来て、日の昇るところから、わたしの名を呼ぶ。彼は長官たちを漆喰のように踏む。陶器師が粘土を踏みつけるように。

- 人・・・ペルシアのキュロス王。彼がバビロニア帝国を倒すという預言。イスラエルをバビロン捕囚から帰還させ、エルサレムに神殿を再建させる。2 節では「東から起こし」とあり、ここでは「北から起こす」とある。東はペルシア、北はメディアである。ともに同族で、メディアが兄貴分、ペルシアは弟分のような関係であった。キュロス王の母親は、メディア出身。「北から起こす」とはキュロスの母方の出を預言している。
- イザヤ 45 : 1 では、この「人」の名が、「キュロス」であることも預言される。

26～27 節 だれが、初めから告げて、われわれが知るようにしたか。だれが、あらかじめわれわれに告げて、「それを正しい」と言うようにしたか。告げた者は一人もなく、聞かせた者も一人もなく、あなたがたの言うことを聞いた者も一人もいなかった。

わたしが最初にシオンに「見よ、それらはここにある」と言い、わたしがエルサレムに「良い知らせを伝える者を与える」と言った。

28～29 節 しかし、見回しても、だれもいない。彼らの中には助言者がいない。わたしが尋ねても返事のできる者が。

見よ、彼らはみな偽りで、そのなすことは空しい。

彼らの鑄像は風のように何も無い。